

LED照明向け新ライン



和光電子が新たに導入した基板の外観検査機

表面実装、大型基板に対応 和光電子 9000万円投資、検査機も

電子部品製造の和光電子(箕輪町、吉岡広彦社長)は発光ダイオード(LED)照明に使う大型のプリント基板の表面実装事業を強化する。LED照明の普及に伴い、今後は従来の蛍光灯型に比べ大型のタイプが増えるとみて、約9000万円を投じてラインを導入した。来春に受注活動を本格化し、事業の柱に育てる。

導入したのは縦56センチ、横41センチまでの大型プリント基板を表面実装できる加工ライン。基板の上に載せたクリーム状のはんだにLEDチップの部品を実装する表面実装機や、表面実装を終えた基板を自動で検査できる外観検査機を新たに導入した。はんだ付けから完成品の外観検査まで一貫し

て請け負う体制を構築した。大型基板を自動で検査する機械の導入は県内ではまだ珍しいという。自動検査機を使うことで、従来は人の目で検査していたチップのずれやはんだの量が適当かどうかなどを瞬時に判断。精度の高い加工が可能だとして積極的に売り込んでいく考えだ。

これまでのLED照明は従来の蛍光灯に代わる照明器具として、形態も蛍光灯と同じものが一般的だった。一方、従来の蛍光灯ソケットへの取り付けには安定器を外すなどの手間がかかっていた。このため、新築の住宅などでは横幅の広い備え付けのタイプが増え続けているという。今後必要が高まるとみて、受注を強化する。

同社は電子部品を手がけるWAKO(横浜市)の伊那工場を引き継ぎ、2002年に設立した。長く基板の表面実装を手がけてきており、大型タイプでもノウハウを生かせると判断した。

11年2月期の単独売上高は約2億円だった。大型基板事業の強化で2年後には年商3億円を目指す。